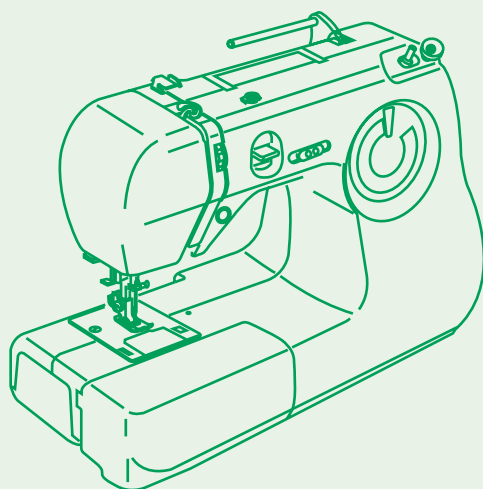


# ご使用のしおり

---



## 《取扱説明書》






**JANOME**

- ◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

## 危害・損害の程度を表わす表示

 <b>警告</b> この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	 <b>注意</b> この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
--	---

## 本文中の図記号の意味

	△ 記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
	⊘ 記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
	● 記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

<p> <b>警告</b> 感電・火災の原因になります。</p> <p> <b>必ず実行</b> 一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。</p> <p> <b>必ず電源プラグを抜く</b> 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき</p> <p> <b>必ず実行</b> 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。</p> <p> <b>禁止</b> ストープ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。 ミシンの使用温度は 5℃～35℃です。</p> <p> <b>禁止</b> スプレー製品などを使用した部屋や、引火しやすい物の近くでは使用しないでください。</p>	<p> <b>注意</b> 感電・火災・けがの原因になります。</p> <p> <b>注意</b> お子様のご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。</p> <p> <b>必ず実行</b> ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手をミシンにそえてください。</p> <p> <b>必ず実行</b> 針および押さえは、確実に固定してください。 また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。</p> <p> <b>必ず実行</b> 以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。 ・押さえ、アタッチメントを交換するとき ・上糸、下糸をセットするとき</p> <p> <b>必ず実行</b> 電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。</p> <p> <b>必ず電源プラグを抜く</b> 以下のことをするときには、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのお手入れを行うとき ・針、針板を交換するとき</p> <p> <b>必ず電源プラグを抜く</b> ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水にぬれたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき</p>
<p> <b>注意</b> 感電・火災・けがの原因になります。</p> <p> <b>分解禁止</b> お客様自身での分解はしないでください。</p> <p> <b>接触禁止</b> ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。</p> <p> <b>禁止</b> ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。</p> <p> <b>禁止</b> このミシンを使用するときは、付属の専用電源コードを使用してください。 付属の電源コードは、このミシン以外の電気製品には使用しないでください。</p> <p> <b>禁止</b> 曲がった針や、先のつぶれた針はご使用にならないでください。</p>	

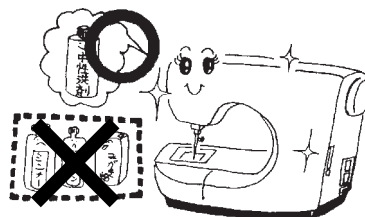
# 目次

各部のなまえ .....	2
標準付属品 .....	2
電源のつなぎ方 .....	3
スタート/ストップボタン .....	3
速さの調節 .....	4
返しぬいレバー .....	4
フリーアーム .....	4
押さえの交換 .....	4
押さえ上げ .....	4
下糸の準備 .....	5
上糸の準備 .....	6
模様の選び方 .....	7
糸調子の調節 .....	7
あらい直線、標準直線、細かい直線 .....	8
丈夫な直線 .....	9
かがり .....	10
シェルステッチ .....	11
普通地まつり .....	12
伸縮地まつり .....	13
伸縮地かがり .....	14
ひろいジグザグ、あらいジグザグ、 細かいジグザグ .....	15
ボタンホール .....	16
ミシンのお手入れ .....	17
針の取り扱い .....	18
ミシンの調子が悪いときの直し方 .....	19

## お取り扱いについての お願い

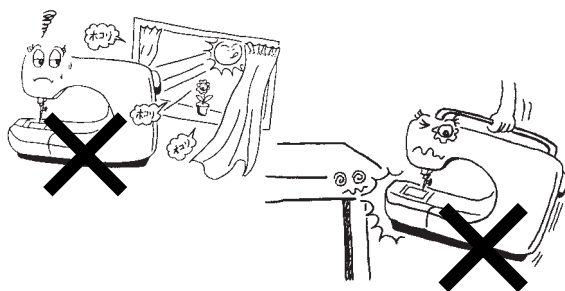
### ◇ご使用前に

- ① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、  
使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてく  
ださい。
- ② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用  
しないでください。



### ◇いつまでもご愛用いただくために

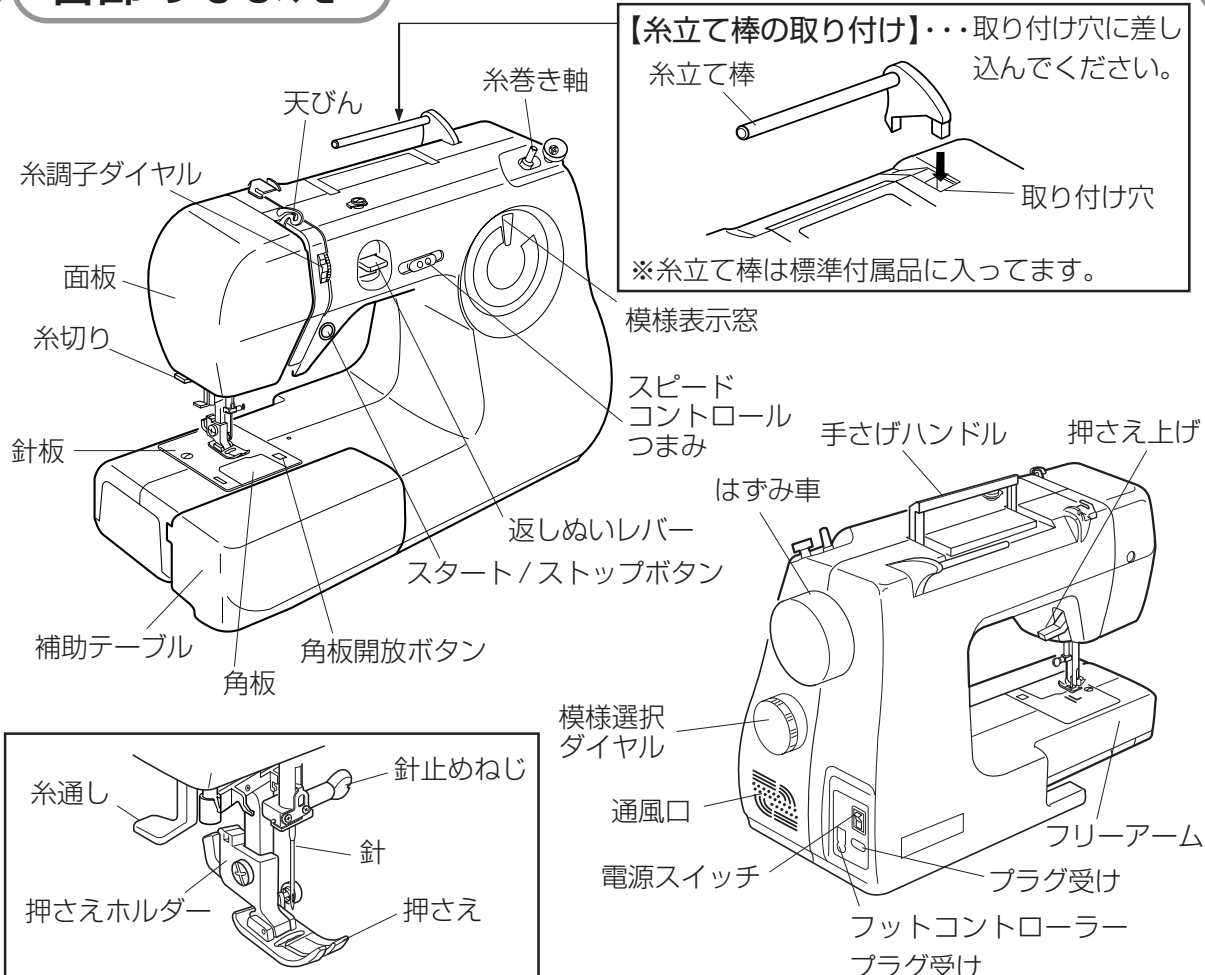
- ① 長時間日光に当てないでください。
- ② 湿気やほこりの多いところは避けてください。
- ③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないで  
ください。



### ◇ 修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障が生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(19ページ)により点検・調整を行なってください。

## 各部のなまえ

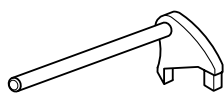


## 標準付属品

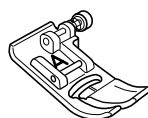
補助テーブルに収納されています。



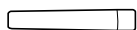
ボビン



糸立て棒



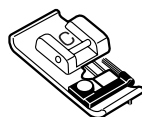
A：基本押さえ  
(基本押さえは、ミシン  
本体に付いています。)



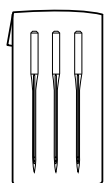
シームリッパー



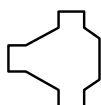
糸こま押さえ



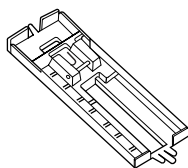
C：たち目かがり押さえ



針3本 (HAX1 14)



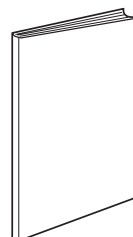
ドライバー



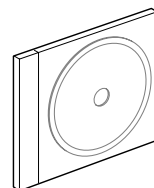
J：ボタンホール押さえ



電源コード



取扱説明書



取扱説明 DVD

## 電源のつなぎ方

### ⚠警告

- ・電源は一般家庭用交流電源（100V 50/60Hz）です。
- ・マシンを使わないときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。  
**感電・火災の原因になります。**
- ・電源プラグやプラグ受けのほこり等は取り除いてください。  
**火災の原因になります。**

### 【スタート/ストップボタンを使用するとき】

- ① 電源スイッチを切り（OFF）ます。
- ② 電源コードのプラグをプラグ受けに差し込みます。
- ③ 電源プラグをコンセントに差し込みます。
- ④ 電源スイッチを（ON）入れます。

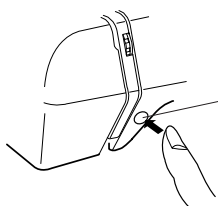
### 【フットコントローラーを使用するとき】

（フットコントローラーは、モデルにより別売になります。）

- ① 電源スイッチを切り（OFF）ます。
- ② フットコントローラープラグをフットコントローラープラグ受けに差し込みます。
- ③ 電源コードのプラグをプラグ受けに差し込みます。
- ④ 電源プラグをコンセントに差し込みます。
- ⑤ 電源スイッチを入れ（ON）ます。

- ※ フットコントローラーを接続すると、スタート/ストップボタンは使用できません。
- ※ フットコントローラーの上に物を乗せないでください。

## スタート/ストップボタン

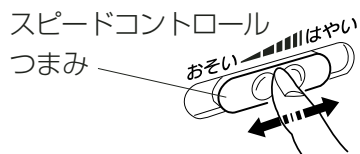


スタート/ストップ  
ボタン

ボタンを押すと、ゆっくり動き始めてからスピードコントロールつまみでセットした速さでぬい始めます。もう1度ボタンを押すと、針は上位置で停止します。

- ※ スタートおよびストップのときボタンを押し続けている間（手をはなすまで）は、低速で動きます。

## 速さの調節



ぬう速さは自由にセットできますので、スピードコントロールつまみを、お好みの速さにセットしてください。

## 返しぬいレバー



※返しぬいレバーを下に押したとき、返しぬいレバーが斜めになりますが、ミシンの特性によるものであり故障ではありません。あらかじめご了承ください。

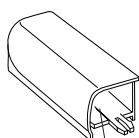
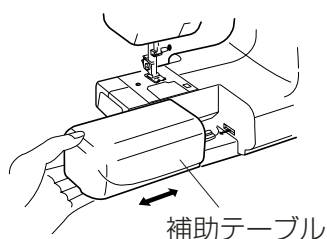
### 【停止中の返しぬい】

レバーを押すと、低速で返しぬいを始めます。指をはなすと止まります。

### 【運転中の返しぬい】

ミシンを運転中レバーを押している間は低速で返しぬいをし、指をはなすと前進ぬいに戻ります。

## フリーアーム

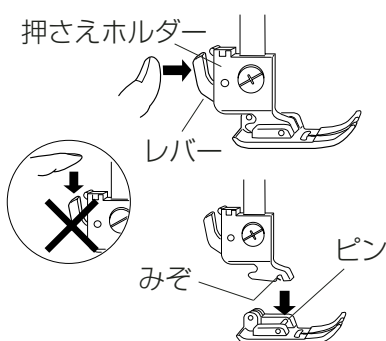


付属品入れ  
(小物入れ)

補助テーブルを横に引いて外すと、フリーアームになります。  
そで口などのぬいにお使いください。

補助テーブルは、小物入れとしても利用できます。

## 押さえの交換

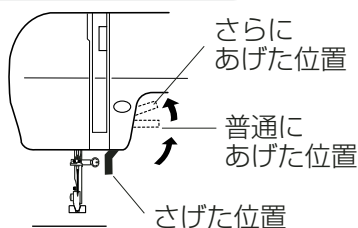


### △注意

押さえの交換をするときは、必ず電源スイッチを切ってください。

- ① 押さえ上げを上げ、押さえホルダーのレバーを図のようにうしろ側から手前に押して、押さえを外します。  
※ レバーを上から押すと故障の原因になります。
- ② 押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにおろします。

## 押さえ上げ

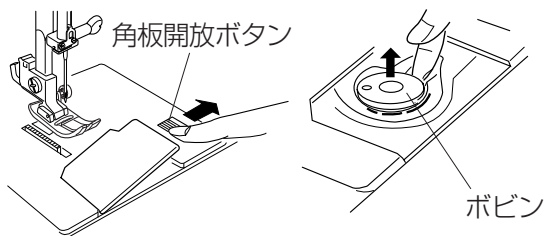


押さえ上げを下げると押さえが下がり、布地を押さえます。

※ 厚い布など布が入れにくいときには、普通に上げた位置よりさらに上げて入れます。

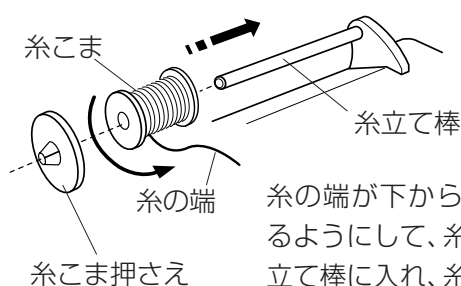
## 下糸の準備

### ★ボビンの取り出し



- ① 角板開放ボタンを右に寄せて、角板を外します。 ② ボビンを取り出します。

### ★糸こまのセット

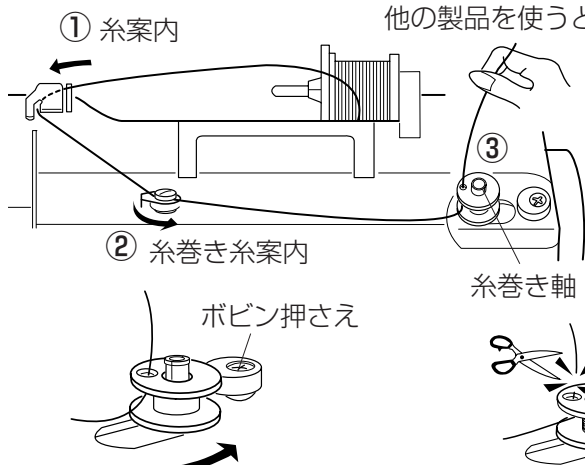


糸の端が下から手前に出るようにして、糸こまを糸立て棒に入れ、糸こま押さえで糸こまを押さえます。

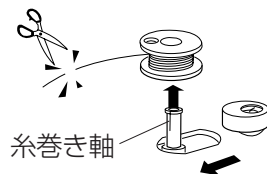
### ★ボビンに糸を巻く

※スピードコントロールつまみは、「はい」にセットしてください。  
※ボビンは必ず専用ボビンをご使用ください。

他の製品を使うと、ぬい不良、または故障の原因になります。



- ① 糸案内にかけます。  
② 糸巻き糸案内にかけます。  
③ ボビンの穴に内側から糸を通し糸巻き軸に差し込みます。

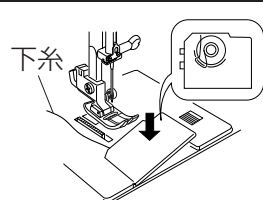
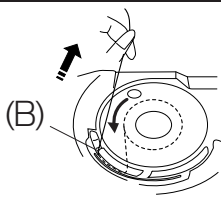
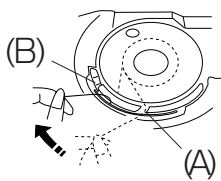
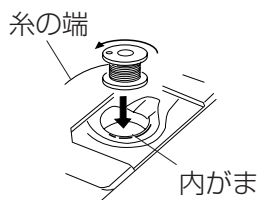


- ④ ボビンをボビン押さえの方に押しつけます。  
⑤ 糸の端をつまんだままミシンをスタートしてボビンに糸が2～3重ほど巻きついたら、ミシンを止めて、つまんでいる糸を切ります。  
⑥ 再びスタートして、巻き終わったらミシンを止めます。糸巻き軸をもどし、ボビンを糸巻き軸より外し、糸を切ります。

### ★ボビンのセット

#### △注意

ボビンを内がまにセットするときは、電源スイッチを切ってください。



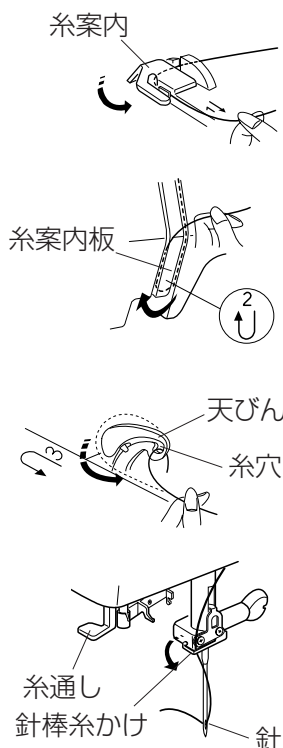
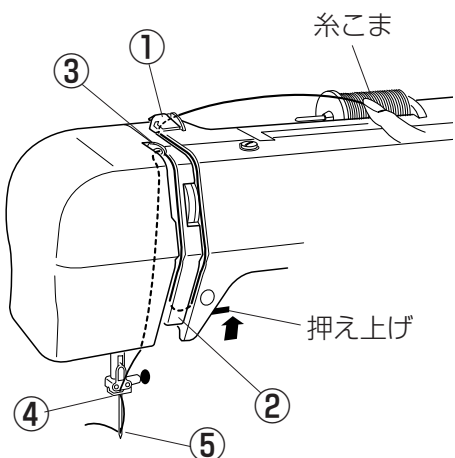
- ① 糸の端を矢印方向に出し、ボビンを内がまに入れます。  
② 糸の端を引きながら、手前のみぞ(A)にかけます。糸を引きながら左へ移動させ、左側のみぞ(B)のところに出します。  
③ 糸を左側のみぞ(B)にかけようように、向こう側に出します。  
④ 下糸は、10cmくらい引き出して、角板を左側から合わせて、付けます。

# 上糸の準備

## ★上糸のかけ方

### △注意

上糸をかけるときには、必ず電源スイッチを切ってください。  
けがの原因になります。

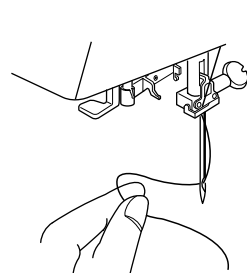
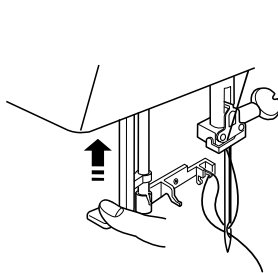
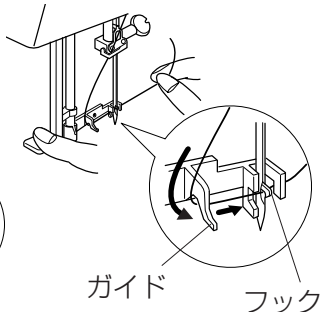
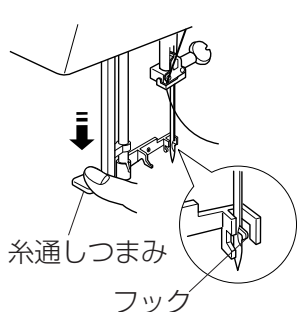


※ 必ず押さえ上げを上げてから上糸をかけます。押さえ上げを上げないと、正しい上糸かけができません。

- ① 押さえ上げを上げます。糸を両手で持って糸案内の向こう側からかけます。
- ② 糸こま側の糸を押さえ、糸案内板にそっておろし、下をまわして左上に引き上げます。
- ③ はずみ車を手前にまわし、天びんを上部にします。  
糸こま側の糸を押さえ、天びんには右からうしろをまわして糸穴に入れ、まっすぐ下におろします。
- ④ 針棒糸かけに左からかけます。
- ⑤ 糸通しを使って針に糸を通します。

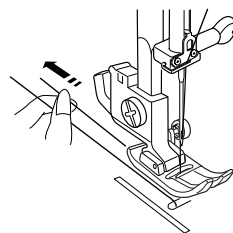
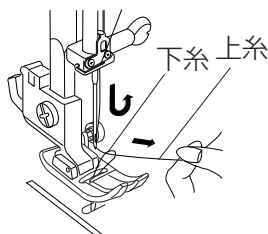
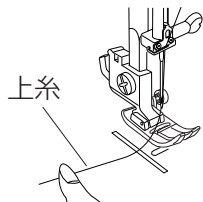
## ★糸通しの使い方

(針は、11番～16番が使えます。糸は、50番～90番が使えます。)



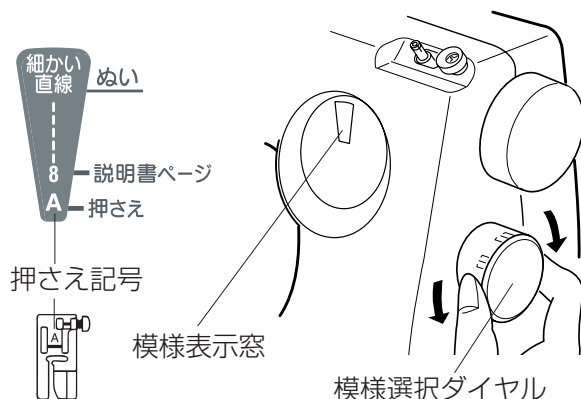
- ① 針をいちばん上に上げて、糸通しつまみをいちばん下まで下げ、フックを針穴に入れた状態で保持します。
- ② 糸を左側からガイドとフックにかけます。糸がたるまないように、ななめ上に引っ張っておきます。
- ③ 糸を軽く持ち、糸通しつまみを静かにもどすと、糸の輪が引き上げられます。
- ④ 針穴から端を引き出します。

## ★下糸の引き上げ方



- ① 押さえを上げ、糸の端を指で押さえおきます。
- ② はずみ車を手で一回転させ、上糸を軽く引くと下糸の輪が引き出されます。
- ③ 上糸と下糸を押さえの下に入れ、うしろへそろえて10cmくらい出します。

## 模様の選び方



針を上げて模様選択ダイヤルをまわし、模様を選びます。

模様表示窓には基本的なめい方、説明書ページ、模様にあった押さえ記号が表示されます。

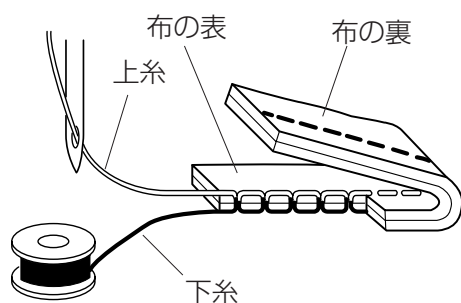
※ 針が布にささったままで模様選択ダイヤルをまわすと、針が曲がったり、折れたりする原因になります。

※ 押さえには記号が付いています。模様表示窓に表示している押さえを使用します。

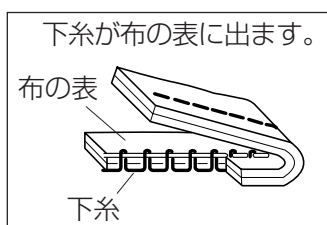
## 糸調子の調節

糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときには、糸調子ダイヤルをまわして、上糸と下糸のまじわる位置を調節します。

【正しい糸調子】・・・上糸と下糸がほぼ中央でまじわります。

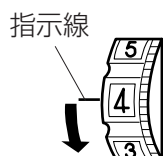
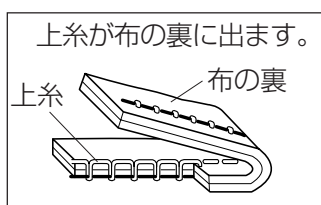


【上糸が強い場合】



上糸が強すぎるときは、糸調子ダイヤルをまわして、小さな数字を指示線に合わせます。

【上糸が弱い場合】



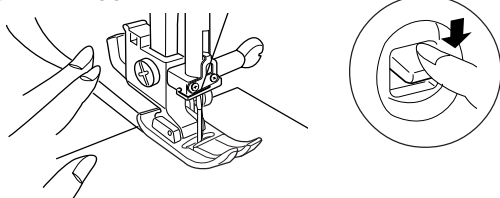
上糸が弱すぎるときは、糸調子ダイヤルをまわして、大きな数字を指示線に合わせます。

# あらい直線、標準直線、細かい直線

## セットの目安

模様	押さえ	糸調子
あらい 直線	 A：基本押さえ	2～6 
標準 直線		
細かい 直線		

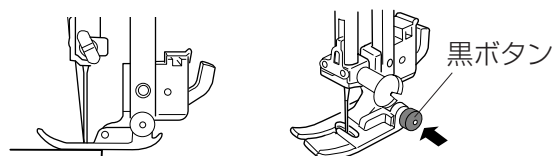
## ★ぬい始め



上糸を押さえの下に通し、下糸と一緒に向こう側へ引き出します。布を入れ、はずみ車を手前にまわし、ぬい始めの位置に針をさします。押さえ上げを下げ、ぬい始めます。

※ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいレバーを使います。

## ★厚い布の布端のぬい始め



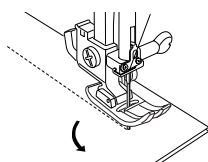
ぬい始めの位置に針をさし、基本押さえの黒ボタンを押し込みます。

黒ボタンを押したままで押さえ上げを下げます。

黒ボタンから手をはなし、ぬい始めます。

押さえが完全に布の上にのると、黒ボタンの押し込みは自動的に解除されます。

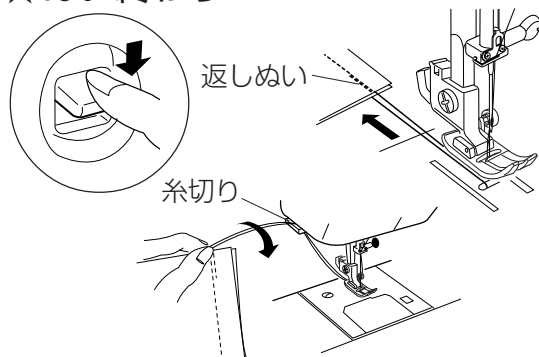
## ★ぬい方向の変更



ミシンを止め、針を布にさし、押さえ上げを上げます。

針を刺したまま、布をまわして方向をかえます。

## ★ぬい終わり

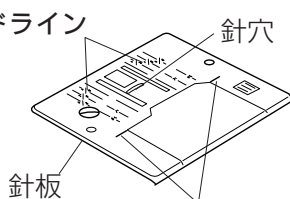


返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

ミシンを止め、押さえ上げを上げて、布をうしろ側に引き出し、糸切りで糸を切ります。

## ★針板ガイドラインの利用

ガイドライン



針穴

針板

ガイドライン・・・布端を合わせます。




数字	15	20	4/8	5/8	6/8
間かく (cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

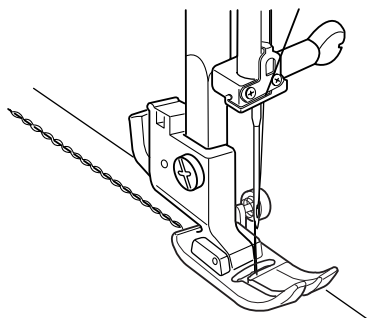
## コーナーリングガイド

布端がガイドのところきたらミシンを止め、針を布にさし、押さえ上げを上げて布を回転させます。(針穴から 1.6cm の位置です。)

# 丈夫な直線

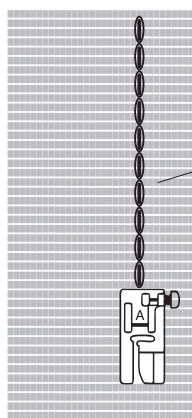
## セットの目安

模様	押さえ	糸調子
	 A：基本押さえ	3～6 

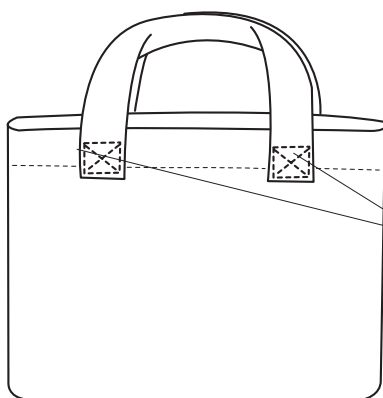


厚い布、ニット地の地ぬいや補強ぬいに使います。

※ぬい目が前後しますので、曲がらないように注意してください。



ニット地の地ぬい



補強ぬい

# かがり

## セットの目安

模様



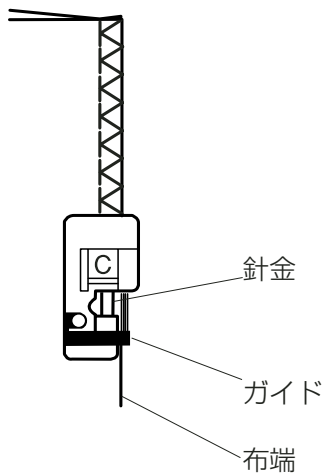
押さえ



C: たちめかがり押さえ

糸調子

3 ~ 6

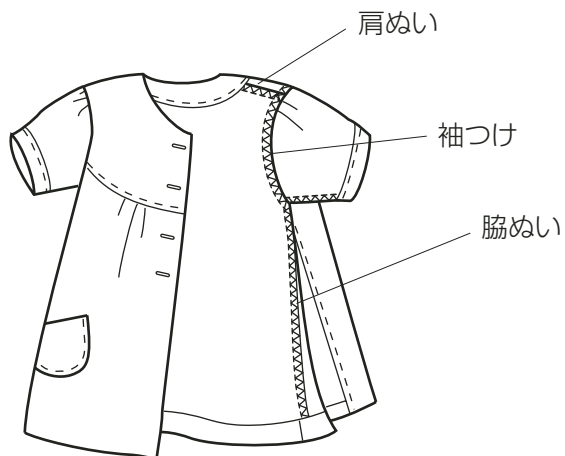


布端のほつれ止めとして広く利用します。  
かがりぬいと地ぬいが同時にできるので、ぬいし  
ろを割らないもののぬい合わせに適しています。  
布端をガイドにあててぬいます。

### △注意




かがりぬいのときに、模様選択をあやまると、  
針と針金があたることがあります。模様を確認  
してからぬってください。

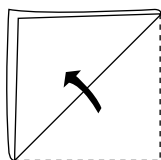
故障、ケガの原因になります。



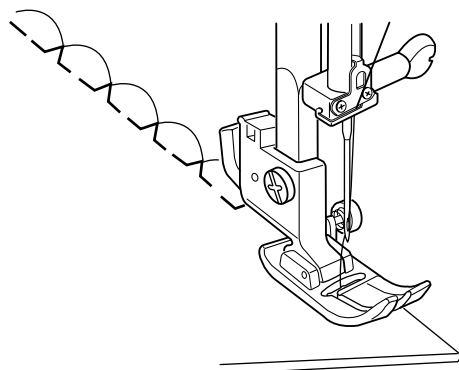
# シェルステッチ

## セットの目安

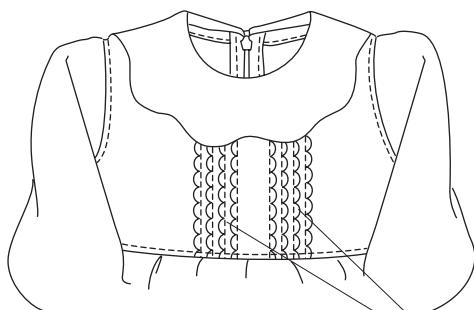
模様	押さえ	糸調子
	 A：基本押さえ	6～8 



① 布をバイヤスに二つ折りにします。






② 針が右にきたとき、布の折り山のきわに針が  
おりるようにしてぬいます。



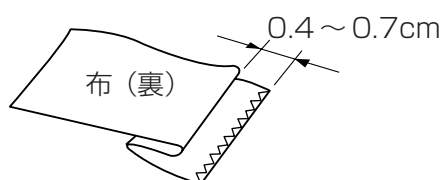
シェルステッチ

# 普通地まつり

## セットの目安

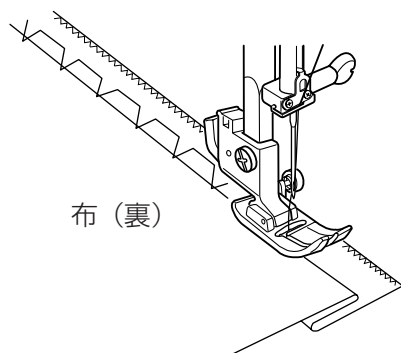
模様	押さえ	糸調子
	 A：基本押さえ	1～4 

## 【布の折り方】



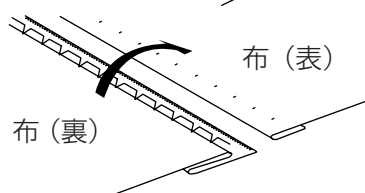
## 【ぬい】

①

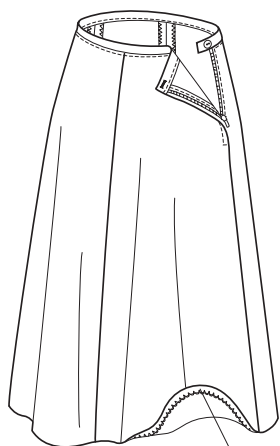


- ① 針がいちばん左にきたとき、わずかに折り山をさすように布をおき押さえを下げてスタートします。  
スピードコントロールつまみは「おそい」にします。

②






- ② ぬい終わったら布を広げます。



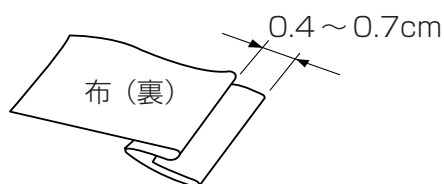
まつりぬい

# 伸縮地まつり

## セットの目安

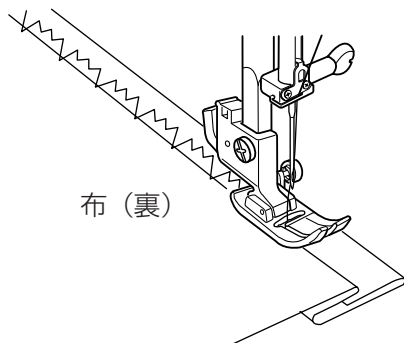
模様	押さえ	糸調子
	 A：基本押さえ	1～4 

## 【布の折り方】



## 【ぬい】

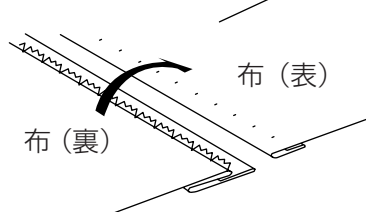
①



- ① 針がいちばん左にきたとき、わずかに折り山をさすように布をおき押さえを下げてスタートします。  
スピードコントロールつまみは「おそい」にします。




- ② ぬい終わったら布を広げます。

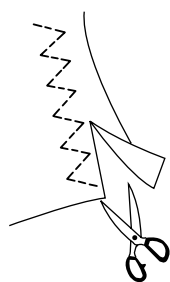
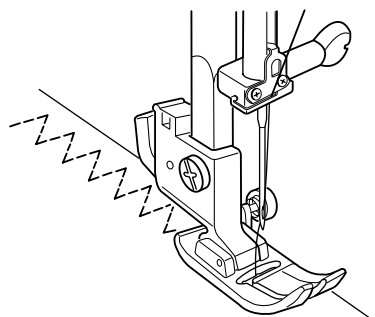
②



# 伸縮地かがり



## セットの目安

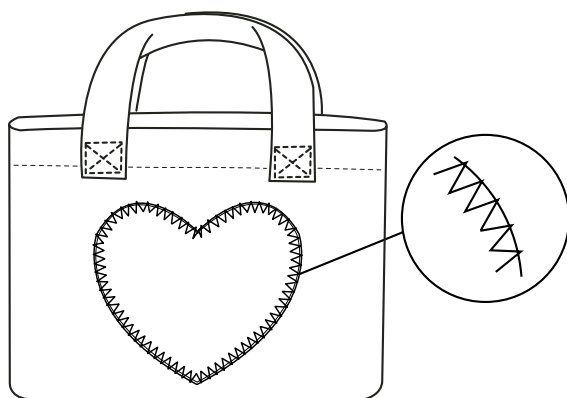
模様	押さえ	糸調子
	 A：基本押さえ	3～6 



ほつれやすい布や、伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに利用します。ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい目近くで切り落とします。

# ひろいジグザグ、あらいジグザグ、細かいジグザグ

セットの目安		
模様	押さえ	糸調子
ひろい ジグザグ 	 A：基本押さえ	糸調子 2～5 
あらい ジグザグ 		
細かい ジグザグ 		

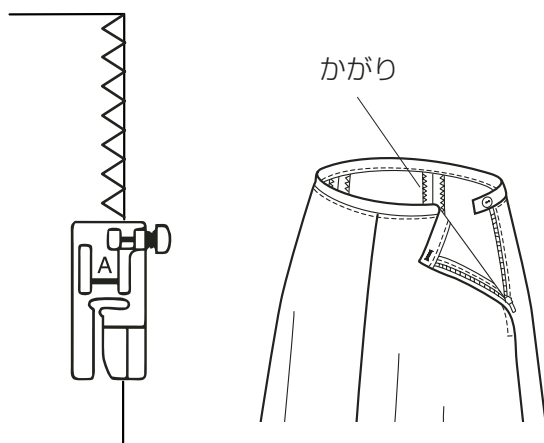


## 【ひろいジグザグ】

(使用例：アップリケ)

アップリケ布をのり付けするか、しつけで止めます。

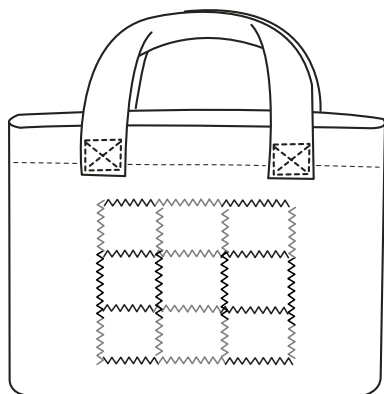
- ※ 針をアップリケ布の端より少し外側へ落としてぬいます。
- ※ カーブのところや方向転換するところでは、ミシンを止め、針を布にさし、押さえ上げを上げて方向をかえます。



## 【あらいジグザグ】

(使用例：たちめかがり)

針を布端より少し外側に落としながらぬってください。



## 【細かいジグザグ】

(使用例：飾りぬい)

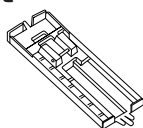
# ボタンホール

## セットの目安

模様



押さえ

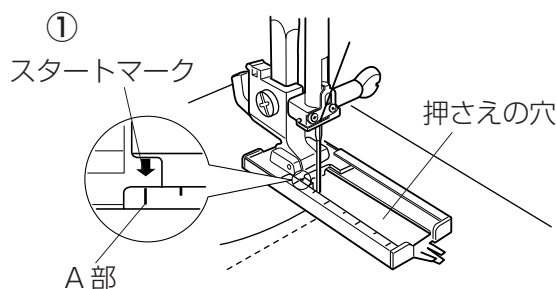


糸調子

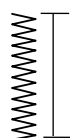
1 ~ 5



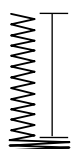
J: ボタンホール押さえ



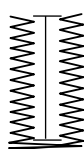
②



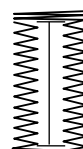
③



④

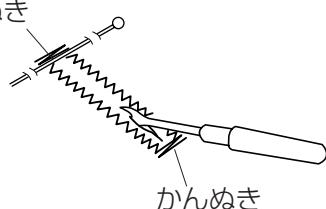


⑤



⑥⑦

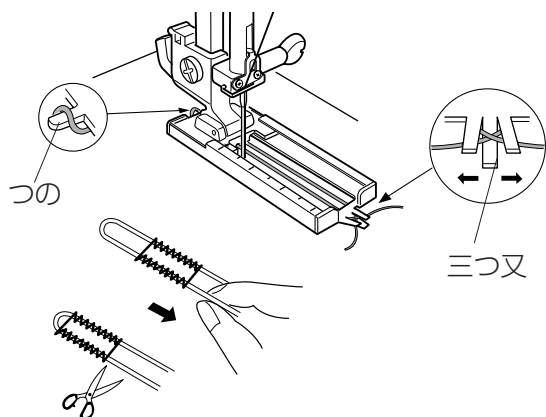
かんぬき



※ めうものと同じ布で試しぬいをしてください。  
※ 伸縮性のある布には、裏に芯地を貼ってください。

- ① 模様 **1** を選びます。上糸を押さえの穴から通して下糸と一緒に横にそろえておきます。押さえを手前に引きスタートマークをA部の目盛りに合わせます。
- ② めい始めの位置に針をさし、押さえ上げを下げミシンをスタートし必要な長さまでぬってミシンを止めます。
- ③ 模様 **4** を選びます。かんぬきを5針くらいぬいミシンを止めます。
- ④ 模様 **3** を選びます。左側と同じくらいぬって、ミシンを止めます。
- ⑤ 模様 **2** を選びます。かんぬきを5針くらいぬいます。
- ⑥ 押さえ上げを上げて布を引き出し、上糸と下糸を10cmくらい残して切ります。
- ⑦ 片方のかんぬきの内側にまち針を刺し、シームリッパーでかがった糸を切らないように中央部分を切りひらきます。

## ★芯入りボタンホール



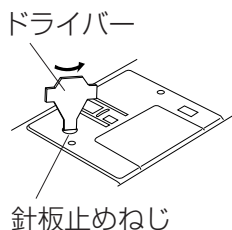
- ① 芯糸の輪を押さえのうしろ側にあるつのにかけ、押さえの下から手前に平行になるように引き出し、前側の三つ又にはさみます。
- ② ボタンホール手順と同じようにぬいます。
- ③ 左側の芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

## ミシンのお手入れ

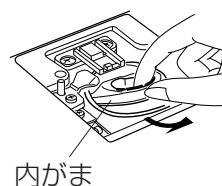
### ★かまと送り歯の掃除

#### ⚠注意

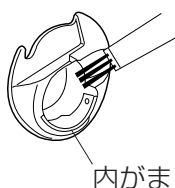
お手入れのときは、必ず電源スイッチを切って電源プラグを抜いてから行ってください。  
また、説明されている場所以外は分解しないでください。  
感電・ケガの原因になります。



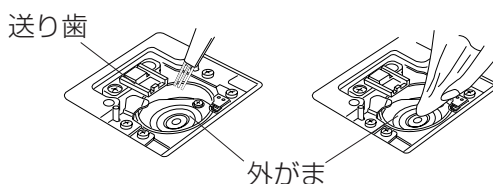
- ① 針と押さえを外します。針板止めねじを外して、針板を外します。



- ② ボビンを取り出し、内がまの手前を上へに引きながら外します。

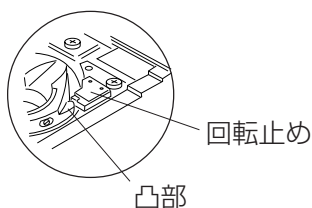
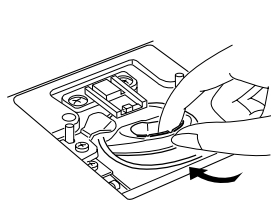


- ③ 内がまをブラシなどで掃除し、布切れで軽くふきます。

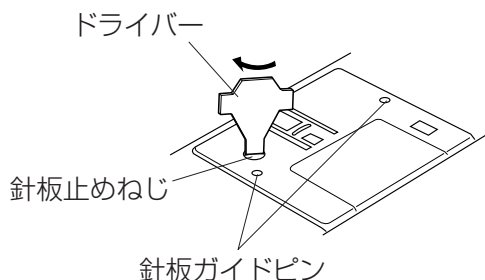


- ④ ブラシや掃除機で外がまと送り歯、およびその周辺の糸くずをとり、外がまを布切れで軽くふき掃除します。

### ★内がまと針板の組み付け



- ① 内がまを差し込みます。  
② 内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。



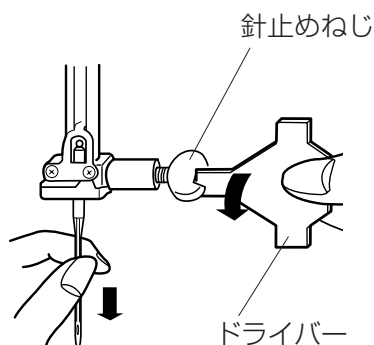
- ③ ボビンを入れ、2箇所針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせ、針板止めねじをしめます。

# 針の取り扱い

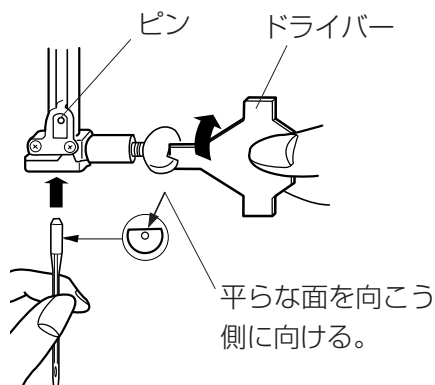
## ★針の取りかえ方

### △注意

針の取りかえは、必ず電源スイッチを切って電源プラグを抜いてから行ってください。  
ケガの原因になります。



① 針止めねじを手前に 1 ～ 2 回まわしてゆるめ、針を外します。



② 針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをドライバーでかたくしめます。

## ★布に適した糸や針を選ぶ目安

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル 90 番	9 番～11 番
普通の布	シーチング ジャージー 一般ウール	絹 糸 50 番 綿 糸 60 番～80 番 ポリエステル、ナイロン 50 番～90 番	11 番～14 番
		綿 糸 50 番	14 番
厚い布	デニム コート地 ツイード	絹 糸 50 番 綿 糸 40 番～50 番 ポリエステル 40 番～50 番	14 番～16 番
		ポリエステル 糸 30 番 綿 糸 30 番	16 番

※ 一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。  
この表を目安に針と糸を選び、ぬいたい布のはぎれを使って試しぬいをしてください。

※ 原則として、上糸と下糸は同じものを使用してください。

※ 伸縮性のある布地（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ジャンメブルー針（別売）を使用すると防止効果があります。  
（市販オルガンSP針も同様の効果があります。）

## ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の場所からみついている。</li> <li>2 上糸調子が強すぎる。</li> <li>3 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。</li> <li>4 針の付け方がまちがっている。</li> <li>5 めい始めに、上糸と下糸を押さえの下にそろえて引いていない。</li> <li>6 針にくらべ糸が太すぎる。</li> </ol>	<p>上糸を正しくかけ直す。</p> <p>糸調子ダイヤルを弱める。 針を交換する。 針を正しく付ける。 上糸と下糸をそろえる。</p> <p>適切な針や糸を選ぶ。</p>
下糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 下糸の通し方が、まちがっている。</li> <li>2 内がまの中に、ごみがたまっている。</li> <li>3 ボビンにキズがあり、回転がなめらかでない。</li> </ol>	<p>下糸を正しく通し直す。 内がまを掃除する。 ボビンを交換する。</p>
針が折れる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。</li> <li>2 針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。</li> <li>3 針を布にさしたままで、模様選択ダイヤルをまわした。</li> <li>4 布に対して針が細すぎる。</li> </ol>	<p>針を正しく付けるか針を交換する。 針止めねじをしっかりとめる。 針をあげてからダイヤルをまわす。 針を交換する。</p>
めい目がとぶ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。</li> <li>2 布に対して、針と糸が合っていない。</li> <li>3 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャンメブルー針（市販S P針）を使っていない。</li> <li>4 上糸のかけ方がまちがっている。</li> </ol>	<p>針を交換する。</p> <p>適切な針や糸を選ぶ。 ブルー針を使う。（別売）</p> <p>上糸を正しくかけ直す。</p>
めい目がしわになる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 上糸調子が合っていない。</li> <li>2 上糸と下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついている。</li> <li>3 布に対して針と糸が合っていない。</li> </ol>	<p>糸調子ダイヤルを調節する。 糸を正しくかけ直す。</p> <p>適切な針や糸を選ぶ。</p>
ミシンが動かない	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 電源のつなぎ方がまちがっている。</li> <li>2 かまや天びんに、糸やごみが巻き込まれている。（このとき、ミシンの安全装置がはたらいて、モータを自動停止する。）</li> </ol>	<p>正しくつなぐ。 かまや天びんの掃除をする。</p>

MEMO

## 修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内（お買い上げ日より一年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

## 修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後8年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

## 無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 使用説明書にしたがって、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとでも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
  - 1) 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
  - 2) 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
  - 3) お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
  - 4) お買い上げ店、または当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
  - 5) 職業用等過度なご使用により不調、故障、または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によってももと通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、および、お買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

## お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は  
下記にお申しつけください。

### 蛇の目ミシン工業株式会社

〒193-0941 東京都八王子市狭間町1463番地

電話 お客様相談室 0120-026-557（フリーダイヤル）  
042-661-2600

受付 平日 9:00～12:00 13:00～17:00  
（土・日・祝日・年末年始を除く）

メールでのお問い合わせは、ホームページ <http://www.janome.co.jp>  
問合せフォームをご利用ください。

	仕	様
使用電圧	100V 50/60Hz	
消費電力	45W	
外形寸法	幅35.4cm×奥行15.4cm×高さ26.3cm	
重量	5.5kg（本体）	
使用針	家庭用 HA×1	
ぬい速度	毎分650針	

仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

